木村宗平＋藤川 悠
幸田千依＋橋本 誠
古久保憲満・松本寛庸＋小林瑞恵 社会福祉法人愛成会
柵瀬茉莉子＋森田彩子
高山陽介＋橋本かがり
丸山純子＋大友恵理

UNDER GALLERY 35

日時＝2013年3月22日［金］— 4月14日［日］ 11:30-19:00
会場＝BankART Studio NYK　入場無料
オープニングパーティー：3月22日［金］19:00-

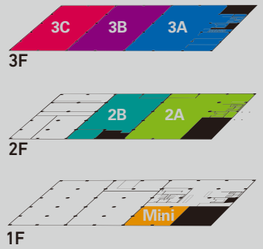
Under35は、35歳以下のアーティストによる個展のシリーズ。三回目にあたる今回は、作家＋ギャラリー（マネージャー）のジョイントチームを対象にした公募から選出された「同時開催展」です。

お問い合わせ / BankART1929 Office
〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9
TEL:045-663-2812　FAX:045-663-2813
info@bankart1929.com
http://www.bankart1929.com

アクセス：横浜みなとみらい線「馬車道駅」6出口
［赤れんが倉庫口］徒歩5分

主催:BankART1929

UNDER GALLERY 35



Sohei Kimura
木村宗平展
プロデュース:藤川 悠

2013.3/22 [fri] - 4/14 [sun]
会場:NYK / Mini Gallery

絵の具は、ピグメント(顔料)とメディウム(固着剤)によって作られる。その素材の関係性に着目し、胡粉や樹脂など様々な素材を使い、実験的な絵画を展開してきた木村は、2011年からは画材をエネルギー(電力)に置き換えた絵画のシリーズを展開している。今回、色も質量も無い電力による絵画表現は、どこまで可能か。輪郭のみを留めた風景を描き、その可能性に迫る。

Mini Gallery

木村宗平
1980年、大阪生まれ。倉敷芸術科学大学就学後、文化学院芸術専門学校卒業。2008−2011年まで女子美術大学の専任助手として勤務。主な展覧会に「GOA」(破゛流知庵、岡山、2000年、大原謙一郎賞受賞)、「第4回高橋秀選抜展−For」(破゛流知庵、岡山、2001年)、「尾道帆布」(百島、広島、2001年)、「木村宗平」(かねこ·あーと·ギャラリー、東京、2005、2006、2008年)、「アートコートフロンティア」(アートコートギャラリー、大阪、2009年)など。現在、ハンマーヘッドスタジオ新·港区にてstudio jean+遊工房の副代表として活動中。

藤川 悠
1980年、広島生まれ。昭和女子大学建築コース卒業。2005年より広島市現代美術館の学芸員として「伊藤有壱アニメーション」(2006年)、「コレクションを見る−夢の話」(2006年)などの展覧会を企画。2006年より森美術館パブリックプログラムアシスタントとして、「鴻池朋子−六森未来図」(2007年)などのプログラムを担当し、「六本木ヒルズ街育プロジェクト−アートのヒミツ」(2009年)を企画。2011年-12年まで東京都現代美術館の学芸員として様々な教育普及プログラムを手がける。

Chie Koda
幸田千依展
プロデュース:橋本 誠

2013.3/22 [fri] - 4/14 [sun]
会場 : NYK / 2A Gallery

Focusing on everything / 絵のまえで会いましょう—これまで様々な都市に滞在しながら描いてきた絵画の大作のうち、現在の幸田の活動を象徴する4点(柏·別府·寿町·台北)を新作と共に展示します。また、会期中に行う公開制作やトーク、随時更新するウェブサイトなどを通して、彼女がテーマに掲げる「つくること」「交わること」に迫ります。

幸田千依
1983年東京生まれ。2007年多摩美術大学卒業。様々な場所に住みながらつくる、レジデンスや滞在制作を中心とした活動を行っている。完成した絵画を展示するだけでなく、公開制作を自覚的に行い、自身が絵画をつくる過程を見せること、人と作品との出会い方について考え、描くことと見せることの両方について模索。「歩く絵のパレード」など、絵画を室内以外で見せる試みなども展開中。「大開眼界」(Soka art center/台北/2009)、「眼差しと好奇心 vol.6」(MIZUMA ACTION/東京/2010)、「KASHIMA2010」(大分/2011)、「Power of a Painting 一枚の絵の力」(3331 Arts Chiyoda/東京/2011)、「寿から絵を放つ」(神奈川/2011)、「台北国際芸術村」(台北/2012)、「BankART妻有」(新潟/2012)、「歩く絵のパレードin石巻」(宮城/2012)、「ドン·キホーテ広島八丁堀店 店内壁画」(広島/ 2012)

橋本 誠(Nomad Production)
1981年東京生まれ。横浜国立大学卒業後、フリーのアートプロデューサーとして活動開始。多様なアートプロジェクトやアートコンテンツの企画·編集プロダクションを手がける。都市との対話(BankART Studio NYK/2007)、KOTOBUKIクリエイティブアクション(横浜·寿町エリア/2008 〜)、東京文化発信プロジェクト室にて「東京アートポイント計画」の立ち上げ(2009-2012)、「Tokyo Art Research Lab」コーディネーターなど。

2A Gallery

Mariko Sakurai
柵瀬茉莉子展 プロデュース:森田彩子

2013.3/22 [fri] — 4/14 [sun]
会場 : NYK / 3A Gallery

いつしか崩れて土にかえる樹皮、製材の過程で必要とされなくなった木っ端、毎日多くのものが生まれ消えていくなかで、ほんのひとにぎりのものがのこっていく。そんな時間の中でのものの成り立ちと縫うことの関わり方について模索していきたい。縫うことの繰り返しは、皆が共有しているこの一瞬の連なりにいつも寄り添っている。会期中もBankARTにて制作を続ける。

柵瀬茉莉子
1987年横須賀市佐島生まれ。2012年筑波大学大学院芸術専攻クラフト領域修了。2010年徳島LEDアートフェスティバルにて『夜の刺繍』を発表、会津·漆の芸術祭にて『木を縫う−きたかたのミノムシ蔵−』と題し、福島県喜多方市の大和川酒蔵にて滞在制作。2011年日本文化芸術機構サポートアワード受賞記念個展「木を縫う」をギャルリーパリで開催。2012年4人展「re-vision」プランタン銀座(東京)

森田彩子
明治44年に建てられた歴史的建造物、三井物産横浜ビルのギャルリーパリで2000年よりディレクションを務める。美術の領域にとどまらず、黒川紀章、佐野元春、朝倉摂、いしいしんじ など、建築、ミュージック、舞台美術、文学、ファッションシーンで活躍するアーティストの展覧会企画やイベントをプロデュースしている。また、パリ、ミラノ、クライストチャーチ、モントリオールなど、マーケットベースでの海外交流も多い。

GALERIE PARISにて同時期開催
2013年3月18日-23日
遠藤章子×柵瀬茉莉子「かたちのないかたち」

3A Gallery

Yosuke Takayama
高山陽介展 プロデュース:橋本かがり

2013.3/22 [fri] — 4/14 [sun]
会場 : NYK / 3B Gallery

大学在学中から高山が続けてきた木彫はこの超絶技巧の具象彫刻が注目を浴びるなか、いま何を求め、どこへ向かうのか。今回のプロジェクトではレリーフ状の新作彫刻と平面を彫りあげ形にする版画を展示。バンクアートの重厚で無機的なモノトーンの空間のなか改めて彫刻というメディアの核心に迫る試みとなる。

高山陽介
1980年群馬県生まれ。2007年多摩美術大学大学院美術研究科修了。同年アジア青年作家プロジェクト展(ヘイリー芸術村·韓国)に参加。2010年群馬青年ビエンナーレ入賞。ギャラリー·ハシモトにて2008年より毎年個展開催。2012年の個展では版制作、刷り、額装まで自らで行った初の版画作品も発表した。具体的なモデルがありながら、独自の視点で抽象化された物語性の強いユニークなタイトルのついた様々なスケールの木彫作品の発表を続ける。

橋本かがり
東京に生まれる。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジにてMA取得。帰国後、美術財団、ギャラリー勤務を経て独立し、2005年アーティストのマネージメントのためのハシモトアートオフィスを設立。2007年東京都中央区にギャラリー·ハシモトを開廊。企画展開催や作品集の発刊と並行して取扱い作家である青木野枝、小川待子、津上みゆき、山本糾らの美術館での個展開催に協力。

3B Gallery

Norimitsu Kokubo / Hironobu Matsumoto
古久保憲満·松本寛庸展
プロデュース:小林瑞恵(社会福祉法人愛成会)

2013.3/22 [fri] - 4/14 [sun]　会場 : NYK / 2B Gallery

夢想した世界を紙の上に描く。誰もが一度は試みたことがあるだろうし、美術史の中でも長い歴史を持つ営みだ。その可能性を、このふたりはさりげなく追求している。松本は小さなモチーフを反復させながら、絶妙に余白を織り込みながら、繊細な色彩で画面を埋め尽くしていく。一方、鮮やかな発色を好む古久保は、その色彩に負けないくらいの大胆な世界を展開する。どちらも90年代生まれ。対照的な二人の展覧会を「スーパー·ワールド·オン·ペーパー」と題し、紹介する。会期中、アール·ブリュットを紹介する特設コーナーを設ける他、関連グッズ等を販売する。

監修:保坂健二朗(東京国立近代美術館主任研究員)
主催:社会福祉法人愛成会　企画:ボーダレス·アートミュージアムNO-MA

古久保 憲満
1995年滋賀県生まれ。古久保の創作は小学校に通い始めた頃より始まる。彼は世界の都市や建築物、宇宙、車、飛行機、船などといった彼が関心を寄せるものを紙面の全方位から描く。かんでんコラボアート21 (最優秀賞/2010)、第9回第10回キラキラっとアートコンクール(優秀賞/2010·11)、ポコラート全国公募展2011(服部正賞/11)、第21回 全日本アートサロン絵画大賞展(自由表現部門優秀賞/2012)、ヨーロッパ巡回展 Art Brut from Japan (トルハウス美術館/オランダ/2012)

松本 寛庸
1991年北海道生まれ。松本は宇宙や生物、歴史、乗り物、記憶など自らが興味を持った対象を彼独特のイメージに転換させ極微の世界を描いていく。松本寛庸作品(山鹿市山鹿健康福祉センター /2008·2009)、この世界とのつながりかた(ボーダレス·アートミュージアムNO-MA+尾賀商店/2009)、アールブリュット·ジャポネ展(アル·サン·ピエール美術館/フランス パリ/2010、埼玉県立近代美術館/2011、新潟市美術館/2011、高浜市やきものの里かわら美術館/2012、岩手県立美術館/2012)

2B Gallery

Junko Maruyama
丸山純子展 プロデュース:大友恵理

2013.3/22 [fri] — 4/14 [sun]
会場 : NYK / 3C Gallery

丸山は、古びた建物をレジ袋によって清らかな花畑に変容させた「無音花畑」、都市の巨大な空白に花を描き続けた「Utopia Totopia」など、在·無を喚起させる作品を発表してきました。彼女の制作は、人の理想の姿を求め、石けんという、水と油、相反する物質の融合する姿を用いながら、社会における個の境界を拡張しようと挑むものです。本展では、廃油石けんを中心に映像、写真などを組み合わせたインスタレーションを構築します。彼女が石けんを介して見つめる<見えない風景>がどのように立ち現われるかご注目ください。

丸山純子
2002年ニューヨーク市立大学ハンターカレッジ美術学科卒。国内外問わず様々なアートプロジェクトに参加。主に廃材を用いて場を変容させる作品を展開。「無音花畑Ⅰ」(越後妻有大地の芸術祭2006 /旧峠小学校)、「無音花畑Ⅱ」(Landmark Project Ⅱ / BankART studio NYK/2007)、「泡花壇」(六本木アートナイト2009/六本木ヒルズ)、「Utopia Totopia」(横浜トリエンナーレ2011連携プログラム//北仲第二工区)

大友恵理
1997-98 CCA北九州リサーチプログラム修了。アーカスプロジェクトスタジオスタッフ(2001)、Art Autonomy Network[AAN] 共同ディレクター (2005-2009)として自立した芸術活動のインフラ整備のためプログラムを多数実施。現在フリーランスでキュレーションや作家サポートを行なっている。「Magazine / Exhibition Project: Gloss」(NADiff+豪州巡回/2002)「パスワード日本とデンマークのアーティストによる対話」(CCGA現代グラフィックアートセンター/2004)、「せかいのつくりかた」(nitehi works /2012)

3C Gallery